

フィールズ株式会社

証券コード：2767

2017年3月期

株主通信(中間)

2016.4.1 → 2016.9.30

CONTENTS

- 01 会長メッセージ
- 02 社長インタビュー
- 05 主要財務指標6年サマリー
- 07 コーポレートデータ/株式情報



Topics トピックス

2016年10月 フル3DCGアニメーション 劇場版『GANTZ：O』全国公開

『GANTZ』(原作:奥浩哉/集英社)は、2000年から「週刊ヤングジャンプ」で連載を開始したSFアクション作品です。コミックスの累計発行部数は2,100万部を超えており、国内外の多くのファンから支持されています。当社グループは、2016年10月にフル3DCGアニメーションによる劇場版『GANTZ：O』を全国公開すると同時に、パチンコ機を発表するなどクロスメディア展開を実施しました。



© 奥浩哉/集英社・『GANTZ：O』製作委員会

国内	2016年 9月	東京新宿にて映画公開記念特別展示『GANTZ：O』開催/VRアトラクション展開	ライブ
	10月	劇場版『GANTZ：O』全国公開	映像
	10月	第29回東京国際映画祭正式出品/プレミア英語吹替版上映	映像
	2017年 1月	『ばちんこ GANTZ』発売予定	PS
海外	2016年 9月	第73回ヴェネツィア国際映画祭 正式出品	映像
	10月	第49回シッチェス・カタロニア国際映画祭 正式出品	映像

2016年11月 『劇場版マジェスティックプリンス-覚醒の遺伝子-』全国公開

『マジェスティックプリンス』は、(株)創通と当社の共同原作となるIP*です。2011年11月よりコミック誌「月刊ヒーローズ」で連載を開始し、2013年4月よりテレビ放送を開始しました。さらに、パートナーと連携し、ソーシャルゲーム、グッズ、パチンコ・パチスロなど多様なメディアに循環させました。そして二巡目のスタートとして、2016年11月には『劇場版マジェスティックプリンス-覚醒の遺伝子-』を全国公開しました。



© 2016 創通・フィールズ/MJP製作委員会

国内	2011年 11月	月刊ヒーローズにて『マジェスティックプリンス』連載開始	コミック
	2012年 10月	ヒーローズコミックス『マジェスティックプリンス』第1巻発売(現在第12巻)	コミック
	2013年 4月	テレビアニメ『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』全国28局にてテレビ放送	映像
	2014年 2月	スマートフォンゲーム『マジェスティックプリンス シューティングヒーロー』配信	ゲーム
	2015年 11月	『パチスロ 銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』発売	PS
	2016年 3月	『CR銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』発売	PS
	7月	BS11にてテレビアニメ全24話+新作第25話放送	映像
	11月	『劇場版マジェスティックプリンス-覚醒の遺伝子-』全国公開	映像
海外	2014年 6月	香港 民間テレビ局J2にて『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』放送	映像

*IP (Intellectual Property) = 知的財産



すべての人に最高の余暇を The Greatest Leisure for All People

代表取締役会長 (CEO)

山本 英俊

(やまもと ひでとし)

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の2017年3月期中間決算につきましては、当社ビジネスの改革期であるとともに、創業来の事業領域である遊技機市場が大きな転換期を迎えたことにより、株主の皆様には大変ご心配をおかけしております。当社は変わらぬ理念のもと、引き続き、未来に向けた持続的な成長を実現するべく、一丸となってまい進してまいります。

当社グループの目指すところは、人々に感動や興奮をもたらす優れたエンタテインメントの創造により、社会全体の幸せに寄与する企業グループです。心の充足感を得て人々が幸せと感じる瞬間を一つでも多く創造していきたい、それが私たちの思いです。

こうした思いを実現するため、当社はビジネスの中核を成す不変的な価値を有するものを模索してきました。広く世の中にあるエンタテインメントを俯瞰し、人々の心を豊かにする余暇の過ごし方について調査・研究を重ねてきました。その過程で、当社はキャラクターやストーリーなどのIPが人々の心に幸せや喜びをもたらす重要な一つの要素であると考え、多くの有力企業とともに、IPを創出または育成する取り組みを進めてきました。現在、当社はIPとあらゆるメディアを結びつけ、人々に感動や興奮をもたらすエンタテインメントの創造に尽力しています。

日本を代表するヒーロー『ウルトラマン』は本年で50周年を迎え、今なお世代やエリアを越えて多くの人々に笑顔をもたらしています。当社グループは、2011年に起きた東日本大震災や本年の熊本地震の際、救援物資のほか、子どもたちの笑顔のためにと、『ウルトラマン』とともに被災地を訪問いたしました。非常に厳しい環境の中でも、ヒーローにふれて笑顔を見せる子どもたちに、私自身、IPの持つ力や可能性、そして当社の使命や責任をあらためて教わった気がいたしました。

当社はグループ企業や多くのパートナー企業とともに、子どもから大人まで、また世界中の人々に笑顔をもたらすIPを創出し、あらゆるメディアを通じて世の中に届けてまいりたいと考えています。そして、最高のエンタテインメントによって、世界中が喜びや感動にあふれることを心より願っています。

これまででも当社の思いにご賛同いただき、多大なるお力添えを賜りました株主の皆様をはじめ、取引先や従業員、そのご家族の皆様にご深く感謝いたします。皆様からのご期待に応えるべく、今後とも精進してまいりますので、引き続き、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2016年12月

IPビジネスの 拡大、加速に向けて

代表取締役社長 (COO)

繁松 徹也

(しげまつ てるや)



株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
また、昨今の急激な事業環境の変化に伴い、当社の足元の業績面において皆様にご心配をおかけしております。
当社はIPを中核としたビジネスを加速させ、IPの価値向上と収益の拡大を実現し、株主の皆様のご期待に応えられますよう、引き続き精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

Q 2017年3月期 第2四半期決算の概況についてご説明をお願いします。

当期はパチンコ・パチスロ分野において、2016年12月のパチンコ機(検定機と性能の異なる可能性のある遊技機)の撤去期限に伴い、新基準機^{*}への入替が進んでいます。当社は、こうした市場環境を見据え、下半期にかけて、とくに需要が見込まれる年末年始商戦に有力IPを活用した複数のタイトルの投入を予定しています。そのため、当第2四半期までのパチンコ・パチスロの販売台数は7万3千台(前年同期比6万1千台減)となりました。

こうした結果2017年3月期第2四半期は、売上高26,659百万円(前年同期比47.0%減)、営業損失6,275百万円(前年同期の営業利益1,884百万円)、経常損失6,828百万円(同経常利益1,930百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失4,856百万円(同親会社株主に帰属する四半期純利益706百万円)となりました。

現在、パチンコ・パチスロの分野において、年末年始商戦に向けての営業活動を開始するとともに、事業基盤の強化に向け、IPの特性と遊技機のゲーム性を掛け合わせた商品力の強化と、流通商社としてのサービス拡充

やファン人口の拡大に向けた様々な諸施策を推進しています。また、その他の分野においてもメジャー化およびシリーズ化が見込めるIP群に投資を集中させ、国内外でのメディア展開を加速させています。さらに、経営効率化に向けた諸施策もあわせて実施しています。

※業界団体による自主規制等により新たに定められた基準に基づく遊技機

Q 社長就任から6か月が経過しますが、新体制における事業推進の方針について教えてください。

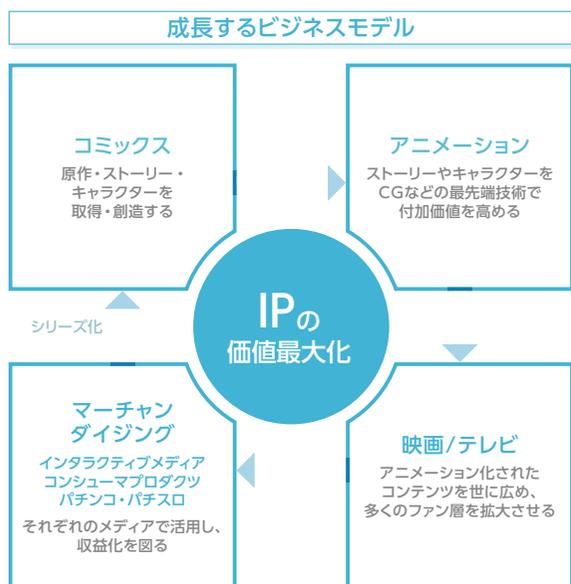
当社グループでは、エンタテインメントの根幹となるキャラクターやストーリーなどのIPを、コミック、映像、ゲーム、ライブエンタテインメント、パチンコ・パチスロなどの多様なメディアに展開し、総体的にビジネスバリューを高める取り組みを推進しています。

そのため、第1に、クロスメディア戦略を通じ、有力なIPを1つでも多く取得・創出するために、各メディアのパートナー企業と協力し、それぞれのIPの価値を高めていきます。第2に、パートナー企業との関係を深め、ビジネスプラットフォームを増やす取り組みを加速していきます。第3に、国内だけでなく、グローバルに通用するIP開発に力を入れ、展開するエリアを拡大していきます。その足掛かりの1つとして、SVOD(Subscription Video



On Demand: 定額制動画配信)事業者との協業を推進し、IPの認知拡大とコンテンツの価値向上に注力しています。

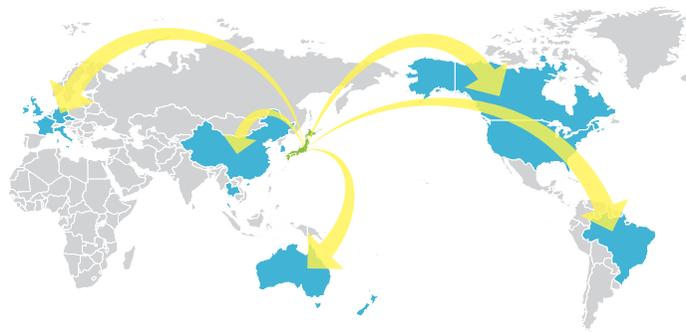
このように、当社グループは有力IPの取得・創出、ビジネスプラットフォームの拡充、展開エリアの拡大を強力に推し進めることで、世代やエリアを越えて愛され続けるIPを創出していきたいと考えています。



ック分野において、引き続き、コミック誌『月刊ヒーローズ』を通じてヒーローIPの創出に注力しています。現在、定額制読み放題サービスの普及などにより市場の拡大が予想されている電子書籍において、国内での配信プラットフォームの拡充を推進するとともに、海外でも中国のチャイナ・モバイルや童石との協業により展開を拡大しています。また、新たに東アジアの配信事業者とのパートナーシップの構築を進めています。

映像分野においては、パートナー企業と協業し、2016年10月にフル3DCGアニメーション映画『GANTZ：O』を公開し、同時にパチンコ機を発表するなどクロスメディア展開を進めています。また2016年11月には、これまでコミック、テレビアニメ、ソーシャルゲーム、パチンコ・パチスロなどの多様なメディアに展開してきた『マジスティックプリンス』について、『劇場版マジスティックプリンス-覚醒の遺伝子-』を公開しました。そのほか、現在、『月刊ヒーローズ』から生み出された『Infini-T Force』(企画・原作:タツノコプロ)や『アトム ザ・ビギニング』(原案:手塚治虫)など、複数の映像化プロジェクトが進行しています。また、こうしたヒーローズ作品も含め、米国や中国などのSVOD事業者と協力し、グローバル展開を見据えた映像製作に注力しています。

ヒーローズ作品 配信地域



ゲーム分野においては、既存タイトルの収益性やゲーム性の改善を図り、積極的な広告展開を推進するとともに、他社IPとのコラボレーション企画を実施しています。それと並行して、当期中のサービス開始を目指した新規タイトルの企画開発を進めています。また、海外にも目

Q それでは、そのIPの価値や収益を高めていく具体的な事業の取り組みについて教えてください。

IPを中核とした具体的な事業活動としては、まず、コミ

を向け既存タイトルの海外展開や海外有力コンテンツの国内展開に向けた諸施策を推進しています。

ライブエンタテインメント分野においては、ファンとの重要な接点となるプラットフォームとして、国内の主要都市を中心に「ウルトラヒーロー」を活用したライブエンタテインメントショーを積極的に展開するとともに、東南アジアでの定期的な開催に向けた企画開発などを進めています。また、国内のテーマパークにおいて『AKB48』を活用したライブショーを企画・プロデュースするなど、新ジャンルのライブエンタテインメントの創出にも注力しています。



『ウルトラヒーローズ THE LIVE アクロバトルクロニクル』

ライセンス分野においては、「キャラクター&ブランド・オブ・ザ・イヤー2016」で日本ブランド・ライセンス大賞グランプリに選ばれた『A MAN of ULTRA』の取り組みをはじめ、IPビジネスの領域拡大および新たなライセンスビジネスの確立に向けて、様々な事業領域における



『A MAN of ULTRA』

有力企業との連携を強化しています。また、海外市場の開拓に向け、東アジアを中心にパートナーシップの構築を進めています。

Q フィールズの利益還元方針について教えてください。

当社は、企業価値の向上を経営の重要課題と位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。具体的な配当は、キャッシュ・フローの状況などを基準に決定しますが、連結配当性向の基準として20%以上を目指しています。内部留保については、財務体質と経営基盤の強化および継続的な事業拡大と競争力の確保に向けた投資に有効活用していく方針です。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げ、その実現を目指しています。

人々の心に届くキャラクターやストーリーを創出し、あらゆるメディアを通じてグローバルに展開することで、世界中の人々に喜びや幸せをもたらすことが、当社の存在意義であり、当社の社会的責任を果たすものと信じ、今後も信念をもって取り組んでまいります。

当社グループのCSR活動の一環である「ウルトラマン基金」では、災害による被災地をはじめ、日本全国の子どもたちにヒーローを通じて笑顔や勇気をもたらしたいとの一心で活動を続けています。現地に赴くと、子どもたちは心の底からヒーローを応援し、一生懸命に声援を送ってくれます。笑顔を見せてくれる子どもたちに感謝するとともに、私自身、あらためて当社の果たすべき社会的責任を強く自覚させられます。こうした子どもたちの声に応えるためにも、当社はより一層の精進を重ね、まい進してまいる所存です。

皆様におかれましては、当社グループの成長にご期待いただくとともに、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

6-Year Summary 主要財務指標6年サマリー

科目	2012年3月期		2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期	
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期
経営成績(百万円)：								
売上高	33,352	92,195	29,118	108,141	36,385	114,904	20,341	99,554
売上総利益	11,983	31,330	8,824	33,279	13,648	33,812	6,920	28,468
売上総利益率(%)	35.9	34.0	30.3	30.8	37.5	29.4	34.0	28.6
営業利益又は営業損失(△)	1,582	8,527	△1,859	10,314	2,176	9,791	△4,077	4,743
営業利益率(%)	4.7	9.2	—	9.5	6.0	8.5	—	4.8
経常利益又は経常損失(△)	1,713	8,661	△1,738	10,268	2,144	9,765	△4,072	5,491
経常利益率(%)	5.1	9.4	—	9.5	5.9	8.5	—	5.5
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は純損失(△)	2,428	5,991	△980	4,720	1,434	5,370	△2,509	3,018
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益率(%)	7.3	6.5	—	4.4	3.9	4.7	—	3.0
財政状態(百万円)：								
総資産	63,102	93,601	63,997	106,628	83,774	104,869	70,408	110,316
純資産	48,685	51,555	49,352	55,098	56,106	58,753	55,014	60,246
自己資本	48,450	51,071	48,942	54,559	55,802	58,279	54,504	59,492
有利子負債	1,427	1,662	1,386	1,052	550	743	402	4,065
キャッシュ・フロー(百万円)：								
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,332	10,015	1,070	13,570	△4,554	16,322	△11,111	△9,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,932	△4,798	△2,625	△6,263	△1,650	△8,018	△1,092	△6,297
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,241	△2,565	△1,111	△2,277	△1,387	△2,018	△1,200	1,624
フリー・キャッシュ・フロー	3,400	5,217	△1,555	7,307	△6,205	8,303	△12,204	△15,384
1株当たりデータ*(円)：								
四半期(当期)純利益又は純損失(△)	73.13	180.45	△29.54	142.27	43.22	161.83	△75.63	90.97
純資産	1,458.83	1,539.04	1,474.90	1,644.15	1,681.62	1,756.27	1,642.51	1,792.83
配当金	中間25	期末25	中間25	期末25	中間25	期末25	中間25	期末35
主要経営指標(%)：								
ROE(自己資本当期純利益率)	—	12.2	—	8.9	—	9.5	—	5.1
ROA(総資産経常利益率)	—	10.0	—	10.3	—	9.2	—	5.1
自己資本比率	76.8	54.6	76.5	51.2	66.6	55.6	77.4	53.9
配当性向	—	27.7	—	35.1	—	30.9	—	66.0

※2012年10月1日付で、普通株式1株を100株に分割しており、過去に遡って当該株式分割を考慮した額を掲載しています。

※2016年3月期より「関連会社より收受する業務受託料等」の計上箇所を変更しました。それに伴い2015年3月期の「営業利益」は2016年3月期以降の決算短信および有価証券報告書

2016年3月期		2017年3月期	
上半期	通期	上半期	通期(見通し)
50,255	94,476	26,659	115,000
13,848	25,480	5,186	—
27.6	27.0	19.5	—
1,884	1,411	△6,275	2,000
3.8	1.5	—	1.7
1,930	1,380	△6,828	2,000
3.8	1.5	—	1.7
706	118	△4,856	1,000
1.4	0.1	—	0.9
91,272	92,478	80,526	—
59,781	58,291	51,709	—
58,919	57,304	51,011	—
6,778	11,423	14,033	—
12,052	13,353	△7,575	—
△1,444	△2,191	△1,511	—
1,415	5,214	1,522	—
10,607	11,162	△9,087	—
21.28	3.58	△146.34	30.14
1,775.56	1,726.88	1,537.26	—
中間25	期末25	中間25	期末25
—	0.2	—	—
—	1.4	—	—
64.6	62.0	63.3	—
—	1,398.1	—	—

売上高



経常利益



自己資本比率



フリー・キャッシュ・フロー



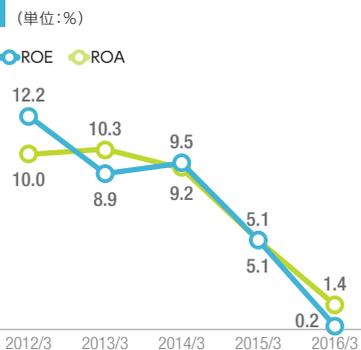
営業利益



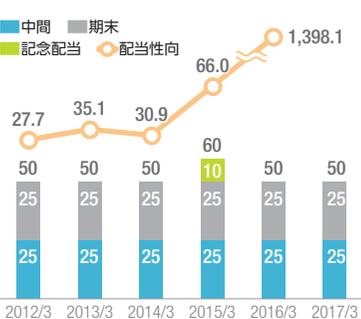
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益



ROE/ROA



1株当たり配当金* (単位:円)



の数値と異なります。

会社概要

商号	フィールズ株式会社 (英文:FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16番17号 渋谷ガーデンタワー
資本金	7,948百万円
従業員数	1,796名(連結)

役員

代表取締役会長	山本 英俊
取締役副会長	大屋 高志
代表取締役社長	繁松 徹也
取締役副社長	秋山 清晴
専務取締役(PS事業統括本部長)	吉田 永
常務取締役	栗原 正和
常務取締役(PS事業統括本部副本部長)	藤井 晶
常務取締役	小澤 謙一
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(PS事業統括本部商品管理部長)	藤島 輝男
取締役(クロスメディア事業統括本部長)	鎌形 英一
社外取締役	糸井 重里
社外監査役 常勤	池澤 憲一
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎

株主メモ

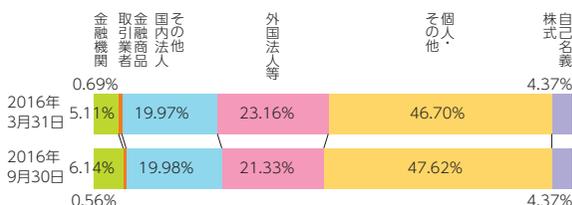
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部

- 住所変更のお申し出先について 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行(株)にお申し出ください。
- 未払配当金の支払いについて 株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)にお申し出ください。
- 「配当金計算書」について 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用頂くことができます。
※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株式状況

発行可能株式総数	138,800,000株
発行済株式総数	34,700,000株
自己名義株式	1,516,300株
株主数	6,619名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	8,875,000	25.58
(株)SANKYO	5,205,000	15.00
山本 剛史	3,612,800	10.41
(有)ミント	1,600,000	4.61
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NVIO1	1,398,400	4.03
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	1,390,200	4.01
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	519,600	1.50
シービーエヌワイ チャールズ シュワップ エフビーオー カスタマー	496,700	1.43
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505019	463,900	1.34
日本マスタートラスト信託銀行(株)	447,300	1.29

(注)当社保有の自己名義株式は大株主(上位10名)から除いています。

(電話照会先)	☎ 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz/ir/ (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)